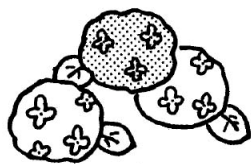


おやこの広場通信



はらっぱ NO.23



気持ちの良い季節になりました。疲れを知らない子どもたちは、ますます元気になっているようです。日中は汗ばむくらいの日でも、朝夕はまだ少し肌寒い時もありますので、体調管理には気をつけて過ごしていきましょう。

<5月のおやこの広場から...>

一緒だね

いままではあまり関わることのなかったAちゃんとBちゃん、ある日の帰りの時間、偶然並んで靴を履いていました。お互いの靴の模様のお話でとても楽しそうです。

「～なの?」「うん～だよ」と靴の模様を指差しながら二人とも笑顔で自然におしゃべりをしていました。お友だちになるきっかけを二人で見つけておしゃべりしている姿は、とても微笑ましいものでした。

おやつとそのあとの少しの時間は、お母さまから離れお友だちと過ごしています。その時間には、お母さまと一緒にいる時には聞かれない可愛い会話やお友だちとの新しい出会いを見ることがあります。

おせんべい大好き!

おやつの時間、C君はおせんべいを細かく割って、ひとつひとつをゆっくりと美味しそうに食べていました。D君はそんなC君のおせんべいをジッと見つめて「食べないの?」と小さなおせんべいのかけらを指差します。「食べるの...」と答えながら、C君は黙々と最後のかけらまで食べ続け、D君はその様子を最後まで見つめていました。

おはながわらった

おやつの後の時間は、ブロック遊びをします。ブロックの中にお花の形をしている物があるのですが、それを見つけたある子どもが、「おはながわらった～」と4月に歌っていた歌を歌い出しました。すると他の子どもたちも「おはながわらった～」と一緒に口ずさみ始めたり、体でリズムを取りはじめました。同じ歌を1ヶ月歌うことで、その歌にも慣れ親しみ、またお友だちとも共有できて、さらにお母さまから離れている時間を、歌を通してお友だちとつながり、そのことで安心感をも得られているのだなと感じさせられた瞬間でした。



でんごんぱん 6月の予定

* 音楽遊び: 8日(金)・20日(水)

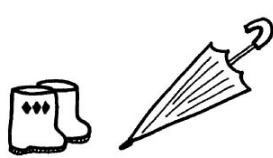
* 親子制作: 牛乳パックで作る「パクパクカエル」

お好きな時にどうぞ

* 水遊び: 27日(水)よりお天気の良い日に行います。
詳しいことは、後日配布するお手紙でご確認下さい。

こんな時どうしますか？

我が子が誰かに乱暴をしたとき



兄弟やお友だち、家族やよその大人に、叩いたり、蹴ったり、物を投げつけたり、噛みついたり、引っ掻いたりしているご自分のお子さんの姿を目にした時、親御さんの心は穏やかでいられないことでしょう。私もそんな経験をつい最近までしてきましたから、人ごとではありません。広場に来られるお子さんの場合は、おもちゃを取られた、貸してもらえなかった、目の前にいて自分の進路の妨げとなった、気に入らないことをされた(叱られた、乱暴された)などが原因となっていると思います。自分の気持ちを、まだ言葉によって上手に適確に表現できず、その気持ちを相手に伝える方法が攻撃行動となってしまうのです。もちろんもう少し大きくなった時には、もっと複雑な問題が含まれ根深いものの存在が見えることもあります。今回は広場エイジ限定で考えていきたいと思います。

こんな時の対応として大切なことは、その行動の背景を見る(探る)ことです。たとえ正しくなくても、某かの理由があるはず。ただし、大人の思い込みだけで決めつけることは良くありません。何も理由なくそのような行動が出る時は、また別の問題を含んでいますから、そのことを見極める上でも、「どうしてこの子は、今このような行動を取ったのだろう」と考えてください。ある程度成長しているお子さんに対しては、「何故したの？」と聞いてみることもいいでしょう。そのためにも、日頃からお子さんの行動をある程度見守っていることが大切になっています。さっき何を遊んでいたか、これから何をしようとしているのだろうか、お友達とどのような関わりを持っていたか、そんなところから推測して対応していけるといいと思います。

しかし、いつもこのように出来るわけでもありません。ある程度原因がわかっている時にも、「しちゃダメでしょ！」といきなり叱るのではなく、「お友だちが泣いているよ。どうして泣いていると思う？」とか「あなたが

しちゃったから泣いているんだよ」と、自分の行為の結果であることがわかるように伝えてください。行動のみを叱ったり、感情的に怒鳴りつけることは、恐怖心や嫌悪感ばかりが残り、何故いけないのかはわかりません。このような対応は時に、反抗心や大人の注意を惹くためにわざとやるようになる、逆効果のケースに繋がることもありますので気をつけてください。

そしてその次に、被害を与えた相手に対してどのようにしたらいいかを、お子さんがわかるように考えの筋道を立てる手助けをしてあげてください。最初から謝罪を強制することは、何でも「ごめんね」と一言口で言えばそれで済むという意識を植えつけ兼ねません。お子さん自身が対応策を考えたり、どうしていいかわからない時には「ごめんねしようか」と助言してあげることで、謝罪の経験や気持ちを育てていけるでしょう。まだこのような対応が難しい年齢の場合、お母さまがお子さんに代わって「ごめんね」とおっしゃることもありますね。そのことは、親御さんとしての気持ちを表す意味でも、お子さんに手本を示す意味でももちろん大切ですが、これだけで完了させることは問題です。形だけになっても、やはりお子さん自身が「ごめんね」をすることを大切にしてください。相手が「いいよ」と言ってくれれば完結出来ますが、そうは言いたくない時もありますので、少なくとも謝罪までは進めておきたいものです。

このような流れは、相手が家族である場合も同じことで、特に被害者が年上故に我慢することもあります。それはよくありません。痛かったり、不快だったことははっきり伝えて、謝ったり許してもらった経験は、自分が許す側に立った時に繋がりますから大切なことですね。

おやこの広場の中でこのようなことが発生した時には、様子を見ながら必要に応じて第三者であるスタッフに関わることがあります。そのような存在を必要とする場合や、またどのように解決したらいいか悩むこともあると思いますので、そんな時にはどうぞお声をかけてみてください。このような経験の中で子ども達は確実に成長していきますから、行為ばかりに捕らわれず、成長のひとこまとして見守りつつ、必要に応じた手助けを一緒にしていきましょう。



聖書のことは「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

ローマの信徒への手紙 12章 15節

